

第6学年社会科学学習指導案

三原市立本郷小学校6年2組（男子18名 女子17名 計35名）

単元名 小さなむらから大きなくにへ ～くにが統一されていく様子を鏡に映し出してみよう～

1 要 旨

本単元は、学習指導要領第6学年の内容（2）に基づくものである。

(2) 我が国の歴史上の主な事象について、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。その際、我が国の歴史上の主な事象を手掛かりに、大まかな歴史を理解するとともに、関連する先人の業績、優れた文化遺産を理解すること。

(ア) 狩猟・採集や農耕の生活、古墳、大和朝廷（大和政権）による統一の様子を手掛かりに、むらからくにへと変化したことを理解すること。その際、神話・伝承を手掛かりに、国の形成に関する考え方などに関心をもつこと。

(1) 単元観

本単元は、狩猟・採集や農耕の生活、古墳、大和朝廷（大和政権）による統一の三つの現象を手掛かりに世の中の様子がむらからくにへと変化したことを理解することをねらいとしている。「縄文時代」「弥生時代」「米づくりの広がり」「古墳」「大和朝廷」の5つの場面に分けて学習を展開していく。

「縄文時代」と「弥生時代」は米づくりを中心に大きく違っており、「衣食住の違い」「人々の行動の違い」「古墳の大きさの違い」など比較して考える力の育成に適した単元である。

(2) 児童観

(3) 指導観

指導にあたっては、「比較して考えること」に重点を置きたい。今と比べることや、資料から狩猟・採集の生活の様子、米作りが伝わった頃の様子を捉え、むらからくにへとどのように変化していったのかを考えさせることで新たな問いを持たせ、追求させていきたい。また、春の遠足で訪れた梅木平古墳や触らせていただいた土器を想起することで、実感を持たせながら学習できるようにしたい。

本単元の導入では、縄文時代と弥生時代を比較することで、人々の生活の様子の変化について興味を持たせ、「米づくりが始まったことで、人々のくらしや世の中は、どのように変わっていったのだろうか」という単元を貫く問いを設定したい。

展開の部分では、資料を読み取る活動を通して、「米づくりの広がりにより、むらの様子がどのように変わっていったのか」「古墳は何のためにつくられたのか」「どのように国土は統一されていったのか」など新たな問いを考えさせ、調べていくことを通して、むらからくにへの成り立ちを理解させたい。

まとめの部分では、学習を進めていくことで分かったことをクロームブックを使ってまとめさせる。国土が統一されていった様子をまとめることで「どのように発展していったのだろうか」という天皇中心の国づくりの学習へ新たな問いを持たせていきたい。

2 単元の目標

我が国の歴史上の主な事象について、世の中の様子，代表的な文化遺産などに着目して，遺跡や地図，年表などの資料で調べ，世の中の変化の様子を考え，表現することを通して，狩猟・採集や農耕の生活，古墳，大和朝廷（大和政権）による統一の様子を手掛かりに，むらからくにへと変化したことを理解できるようにするとともに，主体的に学習問題を解決しようとする態度を養う。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学びに向かう態度
①世の中の様子，代表的な文化遺産などについて，遺跡や地図，年表などの資料で調べ，狩猟・採集や農耕の生活，古墳，大和朝廷（大和政権）による統一の様子を理解している。 ②調べたことを年表や文などにまとめ，むらからくにへと変化したことを理解している。	①世の中の様子，代表的な文化遺産などに着目して問いを見だし，狩猟・採集や農耕の生活，古墳，大和朝廷（大和政権）について考え表現している。 ②狩猟・採集や農耕の生活，古墳，大和朝廷（大和政権）による統一の様子を関連付けたり総合したりして，世の中の変化の様子を考え，適切に表現している。	①狩猟・採集や農耕の生活，古墳，大和朝廷（大和政権）による統一の様子について，予想や学習計画を立てたり，学習をふり返ったりして，学習問題を追究し，解決しようとしている。

4 知識の構造図

狩猟・採集の生活から、農耕の生活となり、生活や社会の様子は変化した。むらは次第にくにへと発展し、各地に大きな力をもつ豪族が出現し、やがて大和朝廷（大和政権）により国土が統一されていった。

米づくりが始まったことで縄文時代から弥生時代の人々の生活の様子が変化した。

米づくりの広がりから争いが起こり、豪族が現れた。王や豪族は力を示すために古墳をつくり、大和地方に大きな力をもつ大和朝廷（大和政権）が現れ国土が統一されていった。

① 縄文のむらの人々は、協力して狩猟や採集の生活を営み、必要な道具は、石、木、骨などでつくっていた。

② 弥生のむらの人々は、定住して農耕の生活を営み、指導者を中心に共同で米づくりを行っていた。

③ 縄文のむらは、狩りや採集を中心とした生活であり、弥生のむらは、農耕を中心とした生活を行っていた。

④ 米づくりが広がると、力の強いむらが周辺のむらを従え、次第にくにへと発展した。くにを支配する王や豪族は、大陸の技術や文化を取り入れ、くにづくりに役立てた。

⑤ 三〜七世紀には、すぐれた技術者を指図し、多くの人々を働かせて築く、巨大な古墳が各地に現れた。

⑥ 大和地方に、より大きな力をもつ（大和朝廷）が現れ、五〜六世紀ごろには、九州地方から東北地方南部までの豪族や王を従え、大陸からの文化を積極的に取り入れた。

5 社会的な見方・考え方を働かせた児童の発言

時間	・青銅器や鉄器が使われるようになったことで交易がおこなわれるようになった。
空間	・米づくりの技術は大陸から伝わってきた。 ・古墳は、九州地方から東北地方まで広がっていた。
相互関係	・古墳づくりには、すぐれた技術者や王、豪族など多くの人が関わっていた。

6 指導計画（全7時間）

次	学習内容	評価の観点			資料	評価規準 (評価方法)
		知	思	態		
【自分発】 である(3)	①縄文の村のくらしの様子に関心もち、資料から読み取り、理解する。		◎		・三内丸山遺跡(写真) ・三内丸山遺跡の出土品(写真)	狩猟や採集の生活が営まれていたことについて、豊かな自然に着目して考え、表現している。 【思-①】 (ノート・発言)
	縄文時代の人々はどのようにくらししていたのだろう。					
	②板付遺跡から見つかった米の写真から弥生のむらのくらしの様子を考える。		◎		・板付遺跡における米づくりの様子(絵)	人々が定住してむらを作るようになったことなどについて、農耕に着目して考え、表現している。 【思-①】 (ノート・発言)
	弥生時代の人々はどのようにくらししていたのだろう。					
	③三内丸山遺跡と吉野ヶ里遺跡を比べ、くらしの様子の変化について疑問を持ち、単元を貫く問いを考える。		◎	○	・三内丸山遺跡の想像図 ・板付遺跡の想像図	狩猟採集の生活から農耕の生活への変化に着目し、学習問題を見出している。 【思-①】 (ノート・発言)
	【単元を貫く問い】 米づくりが始まったことで、人々のくらしや世の中は、どのように変わっていったのだろう。					学習問題の解決に向けた予想や学習計画を立て、解決の見通しをもっている。 【態-①】 (ノート・発言)
第二次 問いの探	④米づくりの広がりによって、むらの様子がどのように変わっていったのかを考える。	◎			・吉野ヶ里遺跡(写真) ・吉野ヶ里遺跡の出土品(写真)	必要な情報を読み取り、世の中の様子がむらからくへと変化した様子を理解している。 【知-①】 (ノート・発言)
	米づくりの広がりによって、むらの様子はどのように変わったのだろうか。					

		⑤古墳の大きさや出土品などの様子から、くにつくりを進めた王や豪族たちの力の大きさについて考える。(本時)	◎			<ul style="list-style-type: none"> ・仁徳天皇陵古墳の航空写真 ・梅木平古墳の航空写真 ・古墳を築いている想像図 ・古墳からの出土品(写真) ・古墳の分布図 ・古墳の種類 	<p>必要な情報を読み取り、古墳の規模やその出土品、古墳の広がりなどを理解している。</p> <p>【知-①】 (ノート・発言)</p>
		なぜたった一人のために大きな古墳をつくったのだろうか。					
		⑥大和朝廷が、5～6世紀ごろまでに九州地方から東北地方南部までの豪族を従え、国土を統一していったことを理解する。	◎			<ul style="list-style-type: none"> ・古墳の分布図 ・古墳からの出土品(写真) ・復元されたのぼり釜と新しい土器(写真) 	<p>必要な情報を読み取り、有力豪族を中心に大和朝廷によって地域の統一が進められたことを理解している。</p> <p>【知-②】 (ノート・発言)</p>
国土はどのように統一されていったのだろうか。							
【自分行き】 まとめる・いかす	第三次 問いの解決	○縄文のむらと弥生のむらの生活について比較したり、米づくりの広がりや当時の人々のくらしや社会の変化を関連づけたりして、自分の考えをクロームブックでまとめる。		○	◎		<p>狩猟・採集や農耕の生活、古墳、大和朝廷(大和政権)による統一の様子を関連付けたり総合したりして、世の中の様子の変かを考え、適切に表現している。</p> <p>【思-②】【態-①】</p>
		米づくりが始まったことで人々のくらしや世の中はどのように変わっていったのだろうか。					

7 本時の展開(5/7)

(1) 本時の目標

古墳の大きさや出土品などの様子から、くにつくりを進めた王や豪族たちの力の大きさについて理解する。

(2) 本時の評価規準

必要な情報を読み取り、古墳の規模や出土品、古墳の広がりなどを理解している。

(3) 学習展開

過程	○主な発問 ・ 予想される児童の反応	◇指導上の留意点 ★評価規準 (評価方法)
問 い の 発 生	<p>○遠足で梅木平古墳に行きましたよね。仁徳天皇陵古墳と比べてみましょう。</p> <p>(仁徳天皇陵古墳と梅木平古墳の航空写真)</p> <ul style="list-style-type: none">・墓に見えないくらい大きい。・きれいな形をしている。・どこがお墓の部分なのかな。・大きさが全然違う。・形も全然違う。・梅木平古墳は6年生全員が入ったけれど、仁徳天皇陵古墳は何人くらい入るのかな。 <p>○仁徳天皇陵古墳は1人のためのお墓です。</p> <ul style="list-style-type: none">・誰のお墓だろう。・なぜこのような大きい古墳をつくったのだろう。	<p>◇実際に訪れた梅木平古墳の航空写真と仁徳天皇陵古墳の航空写真を比べることで、その大きさの違いに気付かせ、本時のめあてに繋げる。</p>
なぜ、たった一人のために大きな古墳をつくったのだろうか。		

問
い
の
探
求

○なぜ、たった 1 人のために古墳をつくったのか予想してみよう。

- ・お金持ちだったのではないかな。
- ・大きな力をもった人だったのではないかな。
- ・王の墓ではないかな。

○資料から、古墳をつくった理由をまとめよう。

古墳を築いている想像図

- ・土を掘っている人と石を並べている人がいる。
- ・はにわをきれいに並べている。
- ・豪華な服装で傘をさしてもらっている人がいるから王か豪族だ。
- ・指示を出している人がいるから渡来人だ。

データ

- ・完成までに 15 年 8 か月の長い時間がかかっている。
- ・680 万 7 千人もの多くの人働いている。
- ・796 億円もかかっているから裕福な人だ。
- ・はにわだけで制作費が 60 億 5 千万円もかかっているから裕福な人だ。

古墳からの出土品と石室の様子

- ・勾玉や管玉など出土品も豪華だからお金持ちだ。
- ・朝顔形やつぼ形などはにわにも種類があるから高い技術を持っていた。
- ・後円部に石室があった。
- ・周りにはにわが並べられていた。

古墳の種類

- ・前方後円墳と方墳と円墳の 3 種類があるから、高い技術があった。
- ・いろいろな種類があるから、個性を示したかったのかな。

○なぜ、つくるのが大変なのに大きな古墳をつくらせたのでしょうか。

- ・大きな力を持つ豪族が、自分の力を示すため。
- ・強い力を者が、周りのくににアピールするため。
- ・大きな力を持つ者にとって、自慢になるから。

○どのような人が古墳をつくらせたのでしょうか。

- ・制作費が多くかかるということは、王や豪族のような裕福な人だ。
- ・多くの人を働かせているから、人を動かす力を持っている人である。
- ・前方後円墳のような難しい形を作ることが出来るということは、すぐれた技術者だね。
- ・すぐれた技術者を動かすことができるというのは、大きな力を持っている人。
- ・王や豪族のような裕福な人。

◇大きな古墳を三内丸山古墳や板付遺跡で暮らしていた人々につくられたのか、これだけの古墳をつくるための技術や働く人はどうしたのか、という問題意識を持たせる。

◇資料をジャムボードで提示し、気付いたことを付箋でまとめる。

◇古墳の出土品から、当時の様子うかがえることに気付かせる。

◇巨大な古墳を見た人が、どのような思いを抱いたかを考えさせる。

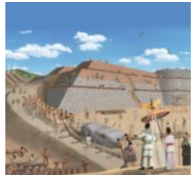
問 い の 解 決	<p>○今日の学習をまとめましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大きな力をもった王や豪族は、自らの力を示すためにすぐれた技術者を指図し、多くの人々を働かせて、古墳をつくらせた。 <p>○このような古墳は、日本のどこに、どれくらいあるのでしょうか。(前方後円墳の分布図)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広島県にはあまり大きな古墳がない。 ・たくさん集まっているところとそうでないところがある。 ・なぜ地方によって古墳の数に差があるのかな。 ・近畿地方と関東地方に多く集まっている。 ・集まっているところには何があるのだろうか。 <p>○集まっている所にはなにがあるのでしょうか。 次の時間に調べてみましょう。</p>	★必要な情報を読み取り、古墳の規模やその出土品、古墳の広がりなどを理解している。 (ノート・発言)
-----------------------	---	--

8 本時の板書計画

6/27 国が統一されていく様子を鏡で映し出してみよう。

㊦ なぜたった一人のために大きな古墳をつくったのだろうか。


㊧ ・大きな力をもった人だったのではないかな。
・王の墓ではないかな。




・土を掘っている人と石を並べている人がいる。
・はにわをきれいに並べている。
・豪華な服装で傘をさしてもらっている人は王様か豪族だ。
・指示を出している人がいる。

データ	
●工事期間	15年8か月
●動員人数	のべ680万7千人
※1か月25日、1日8時間働いたとして計算	
●総費用	796億円


石室の様子と出土品
～森将軍塚古墳(長野県千曲市)～



ひすい製の勾玉 管玉 土器
朝顔形の はにわ つば形の はにわ



円墳 方墳 前方後円墳



大きな力をもった王や豪族が、力を示すため

集まっている所にはなにがあるの？

㊦ 大きな力をもった王や豪族は、自らの力を示すためにすぐれた技術者を指図し、多くの人々を働かせて、古墳をつくらせた。